

埋設廃棄物もリサイクル

TEL/03-3208-5047  
http://www.shinwa-eco.com

『埋設廃棄物・汚染土壌』  
現場分別、処理といえは

新和環境株式会社

詳しくはWebで 新和環境 検索

発行所  
60plus2  
日報ビジネス 株式会社  
Vision Vitality Victory

(東京) 〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町3-1-5  
電話03(3262)3488 FAX03(5214)6633  
(大阪) 〒541-0054 大阪市中央区南本町1-5-11  
電話06(6262)2406 FAX06(6262)2090

12月2日 No.1468

2019年(令和元年)

週刊 月曜発行

発行人 河村 勝志

平成元年9月22日 第3種郵便物承認

購読料 年間 22,900円+税  
(定価) 1部本体 495円+税

# 週刊 循環経済新聞

## The Recycling Economy Times

電子契約なら  
JEMSにお任せを!

弁護士ドットコム × 環境将軍  
JEMS 環境将軍 0120-857-493

# バイオガス発電で3社と連携

食品系・バイオマス

## 実績ある事業者の技術を活用

### 静岡県藤枝市 下水汚泥と生ごみで



あいさつする北村正平市長

静岡県藤枝市は、全国で数少ない、下水汚泥と家庭系生ごみによるバイオガス発電に取り組むため、アーキアエナジー、月島機械、チューサイマネジメン

トの3社と連携、11月21日、協定を結んだ。生ごみの分別回収やバイオガス発電などで実績がある事業者の技術やノウハウを活用する。既設の下水処理場を利用、家庭系生ごみ

を処理に特化した行政と事業者との連携は国内初としている。市は2011年度から家庭から出る生ごみの回収・資源化を推進。19年4月時点で約1万5000世帯まで対象を拡大した。資源化方法は肥料化、委託事業者であるエコライ

フアシストの施設で実施しているが、処理能力がおおむね2万世帯までで世帯拡大の方法が検討されていた。そのうち、稼働を始めた牧之原バイオガス発電所に着目。市は浄化センター

を利用したバイオガス発電を行っており、関連技術で実績のある事業者と連携し、課題を乗り越えることとなった。締結式であいさつした北村正平・藤枝市長は、循環型社会構築の重要性や環境対策に力を入れていくことを強調。締結に同じ方向を目指すパートナーであり、頼もしい。全国のモデルとして展開できると期待している」と述べた。

締結式にはアーキアエナジーの植田徹也社長、関連会社グレースの大橋徳久社長、浄化センターでバイオガス発電を行っている月島機械の福沢義之取締役常務執行役員、同社の

神田章二・横浜支店長、エコライフアシストを運営するチューサイマネジメントの渡辺和良社長、エコライフアシストの阿井徹社長などが参加。

協定締結により、アーキアエナジーは、収集された生ごみの破袋や前処理となるスラリ化の技術提供などを行う。月島機械は、浄化センターでのバイオガス利用の技術提供を行う。チューサイマネジメントは、生ごみの収集運搬やスラリー化の実施について協力する。

市は全世帯(5万9000世帯)での生ごみ分別回収を目指している。新たな設備投資が必要とされるが、費用対効果を見ながら進める方針を示した。チューサイマネジメントは生ごみの分別回収について、「市民の理解を得るのが課題で少なくとも1年はかかるだろう」との見方。月島機械は下水汚泥

と家庭系生ごみによるバイオガス発電について「全国でまれ。下水汚泥由来と、家庭の生ごみ由来の原料を、どうブレンドしていくかが鍵。槽内の菌の状態を見極めながら進めていく」と述べた。

藤枝市・アーキアエナジー(株)・月島機械(株)・(株)チューサイマネジメントの生ごみの資源化に関する連携協定 締結式



左からチューサイマネジメント・渡辺和良社長、アーキアエナジー・植田徹也社長、北村市長、月島機械・福沢義之取締役